

## 1 はじめに

2 今私が一番に実現したいことは、ブロック協議会内各 LOM と静岡が元気になり、活力に満ち溢れること。  
3 当たり前のようなことですがこれが本音です。

4 私は青年会議所を通じて数多くの人に出会えたことに感謝しています。多種多様な人の価値観は私に  
5 多くの刺激を与えてくれました。共に活動してきたなかで育まれた友情はとても篤く、私の活動意欲の底  
6 上げにもなりました。これは私にとって自己成長以外のなにものでもありません。

7 人によって青年会議所に求めるものは違うことでしょう。しかし、私たちは「明るい豊かな社会の実現」ため  
8 に運動を展開・継続しなければなりません。継続することは容易ではなく、人をモチベートするなにかが常に  
9 必要であるはずで。私は感謝の気持ちをもつこと、そしてそれを分かち合える篤い友情を育むことが人の  
10モチベーションを高め、継続した運動を展開する力になると信じています。これらは当たり前のことなのかも  
11しれません。しかし敢えて言います。「感謝」と「友情」を大切にしようと。

## 13 常に変化する社会を乗り越え

14 日本の社会に多大な影響をもたらした新型コロナウイルスも収束の一途をたどり、以前と変わらない生活  
15 が戻ってきたように感じられる人も多いのではないのでしょうか。しかし世界を見れば、いまだ終わりが見えな  
16 いロシアのウクライナ侵攻、それによる社会・経済への打撃。環境面では地球温暖化によって引き起こさ  
17 れる異常気象と自然災害、また人が起因となる自然環境の悪化など、私たちを取り巻く環境は常に変  
18 化し、新たな課題を投げかけられているように感じられます。

19 一方、私たち青年会議所はどうでしょうか。一時は 1,000 人を超えるメンバーが在籍していたブロック協  
20 議会も現在は 900 人を下回っている状態であり、これからも徐々に減っていくのではと危惧されているの  
21 が現状です。これはブロック協議会のみならず日本各地でも同様に会員の減少が問題視されています。  
22 様々な方面から、事業参加率の低下、退会者の増加、各種活動に対する意欲の低下などを耳にする  
23 ことが増えました。新型コロナの影響により活動が制限され、ある一定の期間人と触れ合うことから遠ざか  
24 ってしまったこと、また JC しかない時代から JC もある時代へと変化したことにより想いの伝達「他者へ JC  
25 とは」を行える人が減ってしまったことも要因だと考えます。

26 私は、「JC」とは自らに修練を科し、それを乗り越えるべく最大限のパワーを使うことでさらなる飛躍になるこ  
27 とを総じて自分の殻を破る機会と捉えています。松下幸之助氏は「かつてない困難からはかつてない革新  
28 が生まれ、かつてない革新からはかつてない飛躍が生まれる」と唱えています。この言葉の意味は「経験し  
29 たことのない経験をすると、その先には必ず大きな前進がある」です。この経験は、規模感が大きければ大  
30 きいほど比例して人の心に響きます。私は、この機会を設けられるのが、ブロック協議会がもつスケールメリ  
31 ットを生かした事業こそが必要だと考えます。

## 33 次代のリーダー育成

34 何のために JC を行っているのか、一度はこのような質問を耳にしたことがあると思います。

35 この質問に対する答えは一つではなく、個人様々でしょう。しかし一度入会すれば、職業や年齢は違えど、  
36 同じ志を持った仲間と活動することで新たな価値観に出会い、活動する楽しみの一つとなります。しかし、

新型コロナが蔓延した時期に入会したメンバーの活動意欲は高くなく、参加率も低い水準にあると聞くことが多々あります。また退会者の増加は本会としても問題として掲げられているのが実状です。

本来、JC はリーダーを育成する団体です。リーダーとは、進むべき方向を示し、皆を導ける人です。そのため入会歴の短いメンバーには、次代のリーダーとなるべく能動的な人財を育成する機会が必要だと考えます。LOM の底上げという観点からも、能動的なメンバーが増えることは、求心力の向上を意味し、メンバーの士気が高まることに繋がります。そのためにも入会歴の短いメンバーにこそ活動する楽しさを感じ、これからの活動意欲を高める機会が必要だと考えます。2024 年度ブロック協議会の運動においては、一人でも多くの仲間と篤い友情を育むことに拘り、能動的に活動する人財を増やしていくことに邁進したいと思えます。

また、それと並行し、中期計画として策定された「静岡版理念共感拡大グランドデザイン」の推進があります。2024 年は 5 か年計画の 4 年目にあたり、「理念が具体的な運動として展開されること」が求められています。コロナ過により、浸透率の向上が難しかった時期もありました。実質的な浸透率が目標数値より低いようにも思われます。アフターコロナとなった今、改めて理念浸透率 90%という明確な数値を目標に掲げ、理念を日常的に意識し行動や事業構築に反映できる人財を増やし、持続可能な組織を目指します。

### 3 個々のビジネスの成長

明るい豊かな社会の実現には、経済の成長と発展は必要不可欠な要素であり、この契機を生み出すことも私たちの担いと考えます。社会情勢が著しく変化する昨今、常に新しいものが求められ、既存するものが淘汰されていく社会にもなりました。また静岡県は数年前まで一次～三次産業が国内でも TOP15 以内に入る高水準を保っていましたが、ここ数年の人口減少に伴い、人財確保や賃金の上昇などが課題として挙げられています。

このような状況下において、新たなモデルを追求し挑戦することが成功の一つの鍵だと言われています。新たな一歩を踏み出し、マネジメント能力の向上や、新規モデルの開拓、既存形態のアップグレードなどの多種多様にわたる知識を養うことで解決の糸口となるのではないのでしょうか。地域経済の発展のためにも率先して社会の変化を捉え、新たな挑戦に踏み出せる人財となりましょう。

一方で JC に入れば仕事が貰えるからと入会をし、想定した成果を得られないため退会を希望するという話を何度か聞いたことがあります。これは間違った JC とビジネスの関わり方だと私は考えます。ビジネスの成功は、人と人との良好な関係の中で見込まれることであり、信用を築いてこそ得られるものだとは考えます。JC に所属することで仕事が湯水のように湧くのではなく、能動的に活動するからこそ得られるということを今一度認識し、良質な会員拡大にも努めていきましょう。

### 4 静岡のファンを増やすことが人々の幸せに繋がる

西から東へ大きく広がる静岡。東西約 155 キロ、南北約 115 キロと広大な面積を有する静岡は、魅力となりうる資源を多く有していると、各地の歴史や経済産業からも伺えます。私は静岡に住まう人であれば、誰でも地域の魅力を伝えることができ、人を魅了できるようになることが夢です。

近くて遠い静岡、という言葉があるように、JC に所属する私たちでさせ訪れたことがない場所やあまり知らない地域が多々あると思われます。人口増加や観光客が増えている地域があることは確かですが、その反面、過疎化が進み、人口が減少している地域があることも事実であります。

また、県単位での年代別人口推移の統計を見ると、高齢世代の割合が増え、若者世代が減るといういわゆる少子高齢化が進むと予測されています。県外からの U ターン率は横ばいになる傾向にあるが、いまだ 10 年程まえの水準には達していません。また出生率も全国平均を少し上回っているが、前年度対比からは下降傾向にあり、未来を担うであろう若者が減ることは現段階から予測されているのです。

これらには行政・各市町が各々に対応しているため、足並みが揃いにくく対象となる人びとに想いが伝わりにくいのではないかと考えます。

このような時だからこそ、ネットワークが軽く、県内での情報伝達がスムーズに行えるブロック協議会のスケールメリットを生かした活動が効果を発揮するときだと考えます。静岡に点在する様々な魅力を集約し、静岡のファンを一人でも多く増やすことで、定住人口の安定や U ターン率の向上に繋がり、各市町が潤うという好循環のサイクルに入ることができると考えます。なぜファンなのか、意味を調べるとただ好きなのではなく、その物事を支持するという意味が含まれています。支持とは、下支えになること、またある主張に対して賛成し後押しするというとてもポジティブな意味です。机上の空論ではありますが、もし静岡に住む人全員が静岡のファンだったとしたらと考えると明るい豊かな社会しか想像しえません。この空論を現実のものにするべく、一人でも多くのファンを作ることができるのが私たち青年会議所だと信じています。

## 5 ブロック大会の機会

多くの来訪者を一同に集め、青年会議所運動の発信と、静岡の魅力を発信できる機会こそブロック大会の醍醐味であり、一年の集大成と呼べるものです。新型コロナウイルスの影響もあり、ここ数年は大会の開催方法が余儀なく制限されることや一般来訪者の集客が難しい年などがありました。地域の明るい豊かな社会の実現に向けて活動している私たちが、その持続性と存在を改めて確認する場であるとともに、多くの方に発信し、会員拡大にも繋げる場にならなければ、その意味は薄れてしまいます。

私は、自分が楽しまなければ人にも伝えられず、また人を魅了することもできないと考えています。楽しさから生まれる笑顔は影響力があります。人を引き付ける力をもっています。だからこそ 2024 年度は私たちメンバーが一番に楽しむことを筆頭に、多くの集客を見込める運営に力を注ぎたいと考えています。活動している地域のこと、展開している運動のことを広く伝えられる場となれば、まだ見ぬメンバーにも、地域の人にも私たちの想いが伝わることでしょう。これまでに培ってきたブロック協議会の力を集結し、多くの人を魅了し、静岡の発展に寄与するとともに、会員拡大にも繋がるよう皆で協力し、ともに達成感を味わいましょう。

## 6 終わりに

私は、JC に入会しなければ気づけないことがありました。

それは一人では何もできないこと、そして一人では生み出すものに限界があること。

新たな「ナニカ」を生み出すには大変な労力が必要です。くじける時もあるでしょう、逃げ出したい時もあるでしょう。しかし、すぐ横を見れば助けてくれる仲間がいます。それはただの同じ団体に所属する「人」では

- 109   なく、血の通った仲間、ソウルフрендであり生涯の宝となりうる存在です。
- 110   篤い友情を築き、感謝の気持ちを分かち合える仲間を増やしましょう。
- 111   これからの未来のために